



皆様におかれましては、お変わりありませんでした。いよいよ蓮の花の季節になりました。各地より、蓮開花の便りが届いています。清楚で美しい蓮の花をたくさん観察してください。蓮通信35号をお届けします。蓮祭り特集と「蓮Q&A」第2弾(014など80本)です。
盛り上がりを見せている、当会サイト「蓮談義」に書込み下さい。「蓮のQ&A」も間もなく開設！当面は100問を目標。お気づきの点などがありましたら、事務局までお知らせ下さい。

第37回例会のおしらせ「観蓮会」

日時 7月14日(土) 5時～12時 雨天決行
場所 東京大学緑地植物実験所
住所 千葉市花見川区畑町1051
集合 東大植物実験所に直接お越しください。
雨天決行 当日、車でお越しの方、実験所周辺が大変混雑しますので早めに来てください。
当日事務局の電話 090-3596-2822
問合せ 6月28日～7月6日の期間は、千島理事に連絡下さい。090-1535-3939

東京大学安田講堂前に蓮の花を展示

展示期間 7月21日(土)～8月10日(金)
東京大学は今年、創立百三十周年を迎えました。2008年春まで記念事業、式典、イベントが行なわれています。その記念行事の一つとして、東京大学のシンボルである安田講堂前に、約200鉢の蓮の花が展示されます。銀杏並木から時計台をバックに見る、蓮の花は壮観だと思います。展示用の蓮は、東京大学農学部緑地植物実験所で順調に育っています。

『蓮文化だより12号』原稿募集

『蓮文化だより』12号を明年一月、発行の予定です。原稿締切りは九月末日です。随筆、創作、観蓮記、研究など蓮に関するものでしたら内容は問いませんが、独創的なものを歓迎します。
一人一ページを原則とし、文字数は二千字から二千五百字です。二ページになる方は、五千字を限度といたします。写真、図版は多めに添え

てください。原稿・写真はレイアウトせずお送り願います。図版の選択は編集部に一任ください。
会員の展覧会

木暮照子人形展「蓮・心・形」

熊谷市・八木橋デパート8Fカトリアホール
6月28日(木)～7月3日(火) 入場料一般500円
午前10時～午後6時(最終日は午後5時で終了)
古代蓮に魅せられて25年、以来制作した代表作50余点が展示されます。招待作家・染色家辻信夫氏
問合せ 八木橋 048-523-1111

工藤愛子「絹蓮」展

ギャラリー モナ
7月5日(木)～15日(日) 12:00～19:00
場所 港区麻布十番2-11-3 加美弥ビル1F
昔からの素材「絹」と現代の素材「樹脂粘土」を組合せて創作した蓮の蕾、開花、枯蓮、蓮根をインターネット上フラワーとしてアレンジした30点。
問合せ ギャラリーモナ 電話03-3451-3017
<http://www.n-net21.org>

加藤祐子・木暮照子・三浦功大「花蓮」三人展

ぎやらりーFROMまえばし 群馬県前橋市
8月3日(金)～8月12日(日) 11:00～18:00
陶・人形・写真と表現方法は違いますが、それぞれ蓮をテーマに制作している三人展です。
場所 前橋市上小出町2-10-18
問合せ 電話・FAX 027-232-6838
<http://www.from-maebashi.com>

新会員紹介(5月～6月に入会された方)

飯田高憲 〒410-0817
静岡県沼津市本郷町
電話&FAX 055-932
川野訓志 〒151-0061
東京都渋谷区初台1
電話&FAX 03-3373-9787
工藤正司(行田市長) 〒361-0062
埼玉県行田市谷郷3
電話 048-555

蓮祭り・観蓮会

東南植物楽園・蓮祭り

沖縄県沖縄市
日程 5月26日(土)～7月16日(月)
開園 午前9時～17時30分
入園料 大人千円(高校生以上) 小人五百円
二千坪の湖に蓮が咲いています。蓮めぐりツアー、写真撮影会、蓮文様の紅型地作り等あり。有料。
問合せ 東南植物楽園 098-939-2555
URL <http://www.sebg.co.jp>

行田古代蓮の里・蓮祭り

埼玉県行田市
日程 6月16日(土)～8月12日(日)
駐車場料金 蓮祭り期間中500円
観蓮会 7月15日(日) 午前7時より
催物 蓮粥、蓮茶、蓮もちつき、野点、大正琴演奏、合唱、ウクレレ、オカリナ、投げ会
問合せ 古代蓮会館 048-559-0770
会期中 JR高崎線行田駅前～古代蓮の里バス運行

原市沼の古代蓮園・開園

埼玉県上尾市
日程 6月20日(水)～8月15日(水)
午前5時より開放
大宮駅よりニューシャトルで沼南駅下車 徒歩5分
問合せ 原市沼を愛する会 048-721-1654

荒神谷はすまつり

島根県斐川町
日程 6月30日(土)～7月1日(日) 9時～
午後4時 象鼻杯、斐川町特産品販売
交通 JR山陰本線庄原駅下車タクシィ5分
問合せ 斐川町博物館 0853-72-9044

第4回唐比蓮祭り

長崎県諫早市
日程 7月1日(日) 午前10時開会
会場 唐比蓮園 諫早市森山町唐比東
問合せ 山口 0957-36-1872

南条花蓮公園第15回蓮まつり

福井県南越前町
日程 7月1日(日)～7月29日(日)
花はす燈ろう 7月13日～19日19時～21時
象鼻杯、藕紙作り体験、花蓮資料展
問合せ 役場商工観光課 0778-47-8002

京都府立植物園 京都市左京区

7月6日(金)～16日(祝) 碗蓮 約50鉢を展示
植物園教室 7月7日(土)「蓮の栽培・実生栽培」
午後1時～3時 2階研修室 定員60名

講演会 7月8日(日)「幻の巨椋池の蓮」講師・金子明雄
受付13時 講演1時30分～3時2階研修室

季節の観察会 7月28日(土)～29日(日) 午前7時

問合せ 京都府立植物園 075 - 701 - 0141

URL <http://www.pref.kyoto.jp/plant/>

第2回京都 花はす灯ろう祭

①7月6日(金)～7日(金) 午後7時～9時

内田蓮華苑(花はす灯ろう祭創生の地)

場所 京都市久御山町東一口

②7月13日(金)～19日(木) 午後7時～9時

福井県南越前町花はす公園 花はす灯ろう祭

問合せ 南越前町商工観光課 0778 - 47 - 8002

③7月27日(金)～28日(土) 午後7時～9時

花空間けいはんな 花はす灯ろう祭

場所 京都府精華町北稲八間大路(旧京都フラワセンター)

問合せ 花空間けいはんな 0774 - 93 - 0811

主催 中川光年(善子) 電話・FAX 075 - 392 - 5741

森川花はす田・第24回蓮見の会 愛知県愛西市森川町

日程 7月8日(日) 午前8時～11時(雨天決行)

野点(呈茶券一枚100円)、特産物販売、じまめ
写生会 近くに旧立田村の「赤蓮保存田」がある。

問合せ 八開庁舎社会教育課 0567 - 37 - 0231

水郷佐原水生植物園はす祭り 千葉県香取市

日程 7月7日(土)～8月5日(日) 開園8時～16時

観蓮会 7月8日15日16日22日29日 8月5日 開園9時

象鼻杯、蓮茶(6時～10時) なごめ

問合せ 水郷佐原水生植物園 0478 - 56 - 0411

URL <http://www.city.katori.jp/>

府中市第47回蓮を観る会 東京府中市

日程 7月13日(金)～7月15日(日) 午前7時～9時

場所 府中市民健康センター いこの森 修景池

問合せ 東京都府中市矢崎町5丁目5番地

公園緑地課自然保護係 042 - 335 - 4315

URL <http://www.city.fuchu.tokyo.jp/>

神奈川県立フラワーセンター大船植物園 神奈川県鎌倉市

日程 7月14日(土)～16日(祝) 開園6時

問合せ 大船植物園 0467 - 46 - 2188 (代表)

入園料 20歳以上350円 学生 20歳未満250円

東京大学緑地植物園実験所 千葉県花見川区

日程 7月14日(土) 開園6時

JR検見川駅より徒歩15分、タクシーあり。

東大グッズ、野点、鉢植え等の販売あり。

問合せ 東大緑地植物園実験所 043 - 273 - 8326

岡山後楽園 観蓮節 岡山県岡山市

日程 7月15日(日) 開園午前4時～8時

入場券・茶券・点心券がセットの前売券を市内の

辻利園と常照園で販売中

問合せ 岡山後楽園 086 - 272 - 1148

URL <http://www.okayama-korakuen.jp>

宝蔵寺・蓮まつり 多田昭道(会員) 福島県三春市

日程 7月15日(日)～8月15日(水)

浄土大曼荼羅図公開、木暮照子人形展、投げ会

観蓮会 7月29日午前6時より 野点大服朝茶云 象鼻杯

問合せ 宝蔵寺 0247 - 62 - 2637

第28回上越はすまつり 新潟県上越市

日程 7月20日(金)～8月26日(日)

期間中の土、日、西堀橋で蓮の無料ガイドあり

場所 新潟県上越市・高田公園他

問合せ 上越市観光振興課 025 - 526 - 6901 内線1262

URL <http://www.city.joetsu.nigata.jp/>

第1回 代通寺 蓮まつり 橋爪一能(会員)

日程 7月21日(土)、22日(日) 早朝より観蓮できる

蓮飯、蓮茶、蓮茶アイス、蓮の実甘納豆のサービス

場所 静岡県富士市大淵2132 代通寺

問合せ 代通寺 0545 - 35 - 0564

桑折町第5回蓮まつり 会員 福島県桑折町

日程 7月21日(土)、22日(日) 午前6時～午後12時

場所 桑折町健康福祉センター「やすらぎ園」前広場

朝市 特産品 蓮の実・葉入りうどんなど販売

問合せ NPO法人花の郷夢工房 024 - 582 - 1231

長南町花蓮栽培組合・観蓮会 千葉県長生郡長南町

日程 7月21日(土)、22日(日) 午前8時～午後3時

場所 長南町花蓮栽培組合展示圃

問合せ 長南町役場税務課 大森様 0475 - 46 - 2118

燕趙園・観蓮会 鳥取県湯梨浜町

日程 7月21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日)

午前6時30分開園 蓮茶、象鼻杯体験あり

交通 山陰本線倉吉駅下車タクシー5分

問合せ 燕趙園 0858 - 32 - 2180

三溪園・観蓮会 横浜市・中区

日程 7月21日、22日、28日、29日、8月4日、5日は

午前6時開園

問合せ 三溪園保勝会 045 - 621 - 0634～5

URL <http://www.sanken.or.jp>

甘粕「大使蓮まつり」 埼玉県美里町

日程 7月28日(土)～7月29日(日)

場所 埼玉県児玉郡美里町甘粕1594 長岡池

蓮の開花期間は7月上旬から8月下旬

問合せ 美里町観光協会 0495 - 76 - 1111 内53

近江妙蓮保存会観蓮会 滋賀県守山市

日程 7月29日(日) 午前9時30分～

場所 滋賀県守山市中町39

問合せ 近江妙蓮資料館 077 - 582 - 1340

草津市立水生植物園みずの森 サマーフェスタ 滋賀県

日程 ハス祭り 7月28日(土)、29日(日)

象鼻杯、野点、ハスの生花、俳句会、写真撮影会

開園時間 6月19日～9月2日 午前7時～午後5時

場所 滋賀県草津市下物町1092

入場料 大人300円 小・中学生150円

問合せ 水生植物園みずの森 077 - 568 - 2332

URL <http://www.mizunomori.jp>

伊豆沼・内沼はす祭り 宮城県栗原市・登米市

日程 8月1日(水)～8月31日(金)

伊豆沼(面積289ha)内沼(98ha)一面を覆いつくして蓮が

咲きます。祭りの期間中は蓮見舟が運行されます。

蓮見舟乗場 乗舟料金 大人 600円 小人400円

栗原市若柳会場・栗原市築館会場・登米市新田会場

問合せ 栗原市商工観光課 0228 - 22 - 1151

登米市商工観光課 0220 - 34 - 2734

薬師池公園・第30回観蓮会 東京府田市

日程 8月5日(日) 午前6時～7時

交通 小田急線町田駅北口POPビル先21番乗場から

町53系統、町55系統で薬師池下車

問合せ 町田市公園緑地課 042 - 793 - 7611

蓮の香りの正体は？

蓮の花の匂いを、あなたは嗅いだことがありますか？
花の種類を、匂いで判別できるのは、その花が空気中に発している種々の化学物質による刺激を、あなたの脳が総合的に記憶しているからです。

香りの溶媒抽出成分を分析すると、70種類ほどの成分が検出されますが、主として10種類です。ヘッドスペース気成分分析では、主として4種類の主成分が、蓮の香りの特徴を表現しているようです。その代表が、1,4-Dimethoxybenzene^①、その化学式はC₆H₄(OC₂H₅)₂です。面白いことに、蓮の品種によって香りに差異があります。かつて資生堂のホームページに、蓮の香りの分析結果が紹介されていたことがあります。

蓮の花の香りは、花卉よりは、主として雄蕊から出ています。蓮の花の受粉は昆虫が行いますが、蓮は蜜を出していませんから、虫を集めるのに匂いが利用されている可能性があります。それは花粉の成熟度と香氣成分の量的変化、発熱の相関から想像されることです。

蓮の葉にも、香りがあります。中国の「西湖紅蓮」は、葉の香氣が際立った品種として有名です。蓮の葉の精油成分は、アルカンヤリナロール、α-テルピオールなどのようです。蓮の葉茶は、蓮茶（お茶に雄蕊や蓮花の香りをつつしたもの）と同様、愛飲されます。ハスの葉で包んで調理した料理もまた口福のひとつです。（K）

015

蓮の花が開くとき、音がする？

音は、しません。

古今の有名な作家や文化人が、「蓮の花が開く時、ボンと清らかな音がする」と書いたり、話しています。なぜでしょう？

生物関係者では、市村塘（ツツム）氏が明治27年、『植物学雑誌』（91号）の雑録に、「不忍池で夜明けとともに音を発するのを聞いた」と書いています。

ところが、まだ学生だった生物学者の三宅驥一氏は明治31年、同上雑誌（142号）の論説に「蓮二関スルノ生理的観察」を発表。小石川の植物園で開花を見守り、開花の様子、発熱の測定、葉の伸長、花梗の伸長などを詳細に調べて、「開花ニカンスル二三ノ生理的観察」（和文、英文）では「余ハ：終ニ開花時ニ於テ音ヲ発スルヲ聞カザリキ」と結論しています。



昭和11年 開花音を測定する大賀博士（右）

昭和10年、不忍池で「観蓮節」を復活させようと、「蓮博士」大賀一郎、牧野富太郎、三宅驥一たちが集まりました。弁天堂前の石橋付近で実地検証した結果、「蓮の開花には発音は伴わない」としましたが、『朝日新聞』紙上で論議が起きました。翌11年（1936年）7月24日、観蓮節の際には、マイク・ロフオン等も準備されましたが、音は拾えませんでした。『読売新聞』7月25日夕刊には「マイクも沈黙して音なく咲く蓮の花」「三度目の実験：俗説を破る」と報道されました。

日本には、虫の音の違いを聞き分け、風の音にも季節を感じてきた文化があります。「蓮の音」の真偽と騒動は、こうした情緒を背景にして、考えることもできます。（K）

018

蓮の花は4日の命？

蓮の花の蕾が水中から顔を出し、凜として立ち上がり、しだいにふつくら丸みを帯びながら、20日ほどすると開花します。蓮の花が咲く時間は早朝です。また、一番美しいのも早朝です。蓮の花は開閉を3日間繰り返して、4日目、花弁は全部散ってしまいます。蓮の花は常に同じ姿ではありません。この4日間、その形を変えます。

開花1日目 早朝5時から6時頃より開きはじめます。蕾の先が4〜5cmほど開花すると、それ以上は開かず、やがて元の蕾の状態にもどります（舞姫蓮・ミセススローカムなど黄紅系統の蓮は半開まで）。

開花2日目 早朝7〜8時頃までに開花します。この時の花が最も美しく、花の色が一番鮮やかです。花托も黄金色に輝き、雄蕊からの香りが最も強い時です。花は少しずつ閉じて昼頃までには完全に元の蕾の状態にもどります。

開花3日目 早朝より咲きはじめ、8時頃までに完全に開き、花径が最大になります。花托の雌蕊は受粉して柱頭が黒くなります。開花が2日目か3日目の花かを見分ける

には、柱頭を見れば分かります。花は昼頃から閉じはじめますが、半開のまま4日目を迎えます。3日目になると紅蓮系統の品種はかなり退色します。

4日目 夜半より開きはじめ、7時頃までに完全に開ききり、早いものは9時頃より花弁が散りはじめます。午後には完全に散って、花托と雄蕊だけが残ります。

このように、蓮の花は早朝に咲きますので、早起きして出かけましょう。姿、形、色は開花2日目が最も綺麗です。また、花容は常に変化していますので、何日か続けて観察するといいいでしょう。（Z）

019

最初に観蓮をした人は、だれ？

沼や池に自然に咲く蓮でなく、人工的な環境での観蓮ならば、それは呉の夫差（ふさ）が寵愛した西施（せいし）だとされます。少なくとも、記録に残されている限りでは、そうなるようです。

西施は越の美人で、楊貴妃とともに中国の四大美女のひとつとされます。西施を寵愛し、彼女のために観蓮の池まで造ってやったのは、呉の国王の夫差です。

この2つの国は、「呉越同舟」という言葉があるように、実力は互角、いわば好敵手の関係でした。なぜ越の美女が、呉王の愛妃に？ という興味ぶかいテーマに関心をもつ人は、中国の古代史を勉強ください。

約2500年前、西施が観蓮をした「玩花池」（がんかち）は、現存しています。

蘇州の呉中区（もとの呉県）の景勝地として有名な霊岩山にあります。たて横が約12mあり、浮いていたのは（残念ながら）睡蓮の葉でした。

西施が愛したのは、紅蓮だったそうです。呉県の西には、「呉越を孕（はら）む」とされる太湖（たいこ、琵琶湖の3倍以上）が広がっています。そこに生息していた紅い花の蓮を、夫差は霊岩山に移植し、西施の飲みを買おうとしたのです。なにしろ彼女は、笑わないことでも有名であり、嚙（ひそみ）に倣（なら）うという故事の人ですから。

ちなみに、唐の玄宗皇帝が楊貴妃とともに観蓮をした太液池（たいえきち、西安）の遺跡が、昨年（2006）発掘され、蓮の葉の化石が出土しています。（G）

021

蓮の花で、街を飾った最初は？

1996年6月、中国・マカオを訪れました。街のあちこちの広場には、千を単位とする蓮の鉢が並んでいて、蓮

の花を市民が楽しんでいました。その光景を見た時の驚きは、今も鮮明に記憶しています。

2005年に訪れた、山東省済南市・泉城では、公園の街路樹の下に、鉢植えの蓮の花が並べられ、公園中央の大噴水は蓮の花のオブジェで、音楽にあわせて水煙が勢いよく上がっていました。2006年、浙江省の杭州市にある西湖を訪ねました。その曲院風荷の歩道には、鉢植えの蓮の花が10鉢ほど花壇のようにアレンジされ、所々に置かれていました。それは街の景観をデザインすると共に、観光の客心を癒していました。

中国の省都および大都會の公園や植物園の池には、蓮が植えられています。場所によっては園内に4〜5000鉢の蓮の花が並べられ、夏の風物詩となっています。

このように、蓮の花で街を飾るようになったのは、いつ頃からでしょうか？ それは12世紀初成立した北宋（960〜1127）の都・東京（とうけい・今の河南省開封市）でのことでした。その出来事を記した孟元老著『東京夢華録』（とうけいむかろく）には、次のように出ています。

「御街（皇帝がとる道）は幅もひろく、その両側に煉瓦や石を畳んだ御溝水（ほりわり）が2本ある。そこ全部に蓮が植込まれ、その岸には、桃・李・梨・杏の木が植わり、そのほか色々の花もまじって、春夏の頃には、錦繡のような眺めであった。約900年前に蓮の花で街を飾っていた様子が書かれています。

近年、日本でも蓮の花で街を飾る蓮愛好家が現われています。蓮の花で町起こしをしている福島県桑折町には、NPO法人「花の郷夢工房」があります。そのメンバーは夏になると、町内の主な場所に鉢植えの蓮をおき、人々の心を爽やかなものにしていきます。（Z）

022

品種を意識しての観蓮は？

その最初は、12世紀の宋代、中国でのことでした。ここでいう品種とは、蓮の花の色をちゃんと意識し、観賞という目的を備えた蓮の種類という意味です。

その根拠は、「宋の孝宗年間（1164〜1189）、池のなかに紅と白の荷（蓮）を多く植え、（具体的には）焼物の鉢を花の色別に、底に並べる。それを時に入れ替えれば、まさに美観となす」という『花史』の記述です。

大自然のなかでは、淘汰された結果なのか、品種というのは本来それほど多くないのか、ある1つの種類が支配的に生息しているようです。それ自体は、壮観であり、ま

とに美しいものです。ただ人間という動物は、それとは異なる景観にもまた興味をつ傾向が強いようです。

鉢ないし瓔（かめ）に、蓮を植えて育てれば、その地下茎（いわゆる蓮根）により、品種を保つことが可能です。これは園芸の始まりであると同時に、人工的に交配して、新しい品種を作り出すことも可能です。その結果として、観蓮の楽しみは、何倍にもふくらみます。

蓮の品種そのものについて、中国では、『酉陽雜俎』（ゆうようざつそ。9世紀）4品種、『遵生八牋』（じゅんせいはいせん）15世紀6種類などが古い記録です。日本には、蓮の絵を美しく描いた『画譜（がふ）』として、『池のにしき』19世紀35種『清香（せいこう）画譜』19世紀55種などがあることを指摘しておきます。（G）

023

敦煌の壁画に、観蓮の絵がある？

あります。それは第290窟にある壁画の「出游観花」です。数人のお供をつれた主人（男性）が、池のなかに咲く蓮の花を観ています。蓮の花弁は、現在、その縁が黒くなっています。これは退色したためであり、本来は赤ないし紫色だったと思われま

敦煌（甘粛省）で観蓮をする主人は、池のほとりに、どつしりと座り、お供の者たちはその後ろに立っています。その衣装や冠りものからして、漢族ではなく、いまだいう少数民族（ウイグル族）のよう

地球の温暖化に、警鐘が鳴らされています。それは確かに、人間の生活から排出される炭酸ガスや、オゾン層の破壊と関係があるようです。同時に、この「青い」地球の環境変化は、われらの理解と想像を、はるかに越えることもあるようです。

5世紀の敦煌には、無数の寺院があり、人びとの豊かな暮らしがあり、観蓮ができるほどの条件があったのです。そんなことは、現在、「砂漠のなかの真珠」にたとえられる敦煌からは、とても考えられないことです。

さらに言えば、楼蘭のように、流れる熱砂に埋もれたケースもあります。オアシス都市の楼蘭は、漢代（紀元前後400年間）、人口が2万という繁栄ぶりでした。明るい話題を、2つ。

敦煌の第61窟には、「蓮の香りをまく香積菩薩」の壁画があります。10世紀の五代の作品で、五彩の蓮の雲にのつた菩薩が、壺から、粒状の光りかがやく「蓮の香り」を下界にまいている図なのです。

2つ目。新疆のタクラマカン砂漠の北に位置するコルラも、歴史あるオアシス都市で、現在は原油の積みだし基地。その東にあるボステン湖に、アシが群生し、蓮の花が咲いているという情報がありました。（G）

024

蓮の花にも、誕生日がある？

ほとんどです。蓮の花に誕生日がある、というのは。農歴の6月24日が、蓮の花の誕生日です。これを新暦に換算すると、約1カ月ほど遅くなり、7月の中旬です。

じつはこれは、17世紀の明末に、蘇州の民間から起こった風習とされます。この時期、蘇州の南門をでると、一面の蓮の田んぼが広がっていました。蓮の花は、当然のこと、満開であり、いまを盛りと咲き競っています。人びとは酒食を用意し、小舟を仕立て、蓮の花の海へと繰りだします。飲めや、歌えや、という楽しい1日です。

誰いともなく、こうした宴の日のことを、蓮の花の誕生日とか、荷（蓮）を観る節（祭り）と呼ぶようになりま

した。この風習はやがて、全国の蓮のある場所へと広ま

ていきました。それ以上前の元代すでに、読み物の『第七才子書』には、男性が琴をつまびき、その横にいる麗人と観蓮する描写があります。

人に誕生日があるように、美しく咲いた蓮のために、誕生日を考えたのは、蘇州の民です。これぞまさしく、「文化力」です。蘇州は、かつて呉の国都であり、いまも昔も、文化の発信地なのではないでしょうか！

清代の蘇州の民間風俗を紹介した『清嘉録』（顧稼）には、6月24日、虎山かいわいが、蓮の誕生日で賑わう様子を「荷花蕩（かかとう）」と表現し、紹介しています。

日本の文化人たちは、この麗しい中国の風俗に注目しました。江戸末期の詩人・館柳湾は、あまたの漢籍を渉猟し、『林園月令』を著わしています。その中には「荷花蕩―観蓮節」のことが記されています。（G）



北京の観蓮会風景(1920年代)